

実践のまとめ（第2学年 社会科）

佐渡市立高千中学校 教諭 小田 和也

1 研究テーマ

地理的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を関連付けて意思決定できる生徒の育成

～パフォーマンス課題と単元構成の工夫を通して～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領社会編では、「社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」ことが求められているが、他者に自分の考えを説明し、議論するためには、その前提として、社会科における各分野の見方・考え方を働かせ、社会的事象を関連付けて意思決定できる力が必要になると考える。

これまでの自分の実践を振り返ると、単元のまとめ段階で、「単元を貫く学習課題」を設定し、社会科における各分野の見方・考え方を働かせ、社会的事象を関連付けて意思決定できる力を育もうと努めてきた。この方法では、既習事項から「単元を貫く学習課題」に関連すると考えられる社会的事象を選択することはできた。しかし、社会的事象を羅列したり、習いたての知識に偏った説明をしたりするに留まった。結果、社会科における各分野の見方・考え方を働かせ、社会的事象を関連付けて意思決定することはできず、対話をさせても社会的事象を列挙するのみとなった。

これらは、①生徒の意思決定に関わる社会科の各分野の見方・考え方が不明確であること。②社会的事象を関連付ける必然性がなかったこと。③単元の意思決定段階で、単元初期に習った社会的事象の知識を忘れてしまっていることが原因として考えられる。

そこで本研究では、①②の課題を解決するために、地理的な見方・考え方を働かせる条件と価値判断を行う条件を付した「パフォーマンス課題」を設定する。また、③の課題を解決するために単元構成を工夫し、単元を通して関連付けるべき社会的事象を生徒が常に意識できるよう、1次と3次で「パフォーマンス課題」を提示する。そして、2次の知識獲得段階で、ワンペーパーポートフォリオ（以下、OPPとする）を用いて関連付ける社会的事象を常に意識できるようにする。これらによって、生徒が地理的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を関連付けて意思決定できる姿が期待できると考えた。

(2) 研究テーマに迫るために

① 地理的な見方・考え方を働かせる条件と価値判断を行う条件を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を設定する。

地理的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を関連付けさせるために、地理的な見方・考え方を働かせる条件と価値判断を行う条件を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を設定する。1次で設定する際には、関連付ける社会的事象を生徒が認識しやすいよう、どんなことを明らかにしたら意思決定できそうかと問い、タブレット端末に記録させる。このように「パフォーマンス課題」を導入段階で確認することで、生徒が単元を通して地理的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を関連付けることを促せると考えた。

- ② 生徒が単元を通して関連付ける社会的事象を意識し続けられるように、単元構成を工夫する。

単元を通して地理的な見方・考え方を働かせ、既習の社会的事象を関連付けやすくするためには、生徒が関連付ける社会的事象を意識し続けられる必要があると考えた。そこで、次のような単元構成を設定する。

- ア 1次の課題把握段階で2つの条件を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を提示する。
 イ 2次の知識獲得段階で「パフォーマンス課題」に対する意思決定で関連付ける必要がありそうな社会的事象をOPPに記録させる。
 ウ 3次の課題解決段階（意思決定段階）で2つの条件を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を提示する。

アの1次の課題把握段階で「パフォーマンス課題」を提示することで、イの2次の知識獲得段階で生徒が関連付ける社会的事象を意識し続けることができ、2次の知識獲得段階に習った社会的事象を、ウの3次の課題解決段階（意思決定段階）でも関連付けやすくなると考えた。

(3) 研究テーマに関わる評価

対象生徒を中心とした学級集団の学びの様子（つぶやき、発言、ワークシート等）から検証する。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

地理的分野「中国・四国地方」（『中学社会 地理 地域に学ぶ』 教育出版）

(2) 単元の目標

- 中国・四国地方に関する様々な資料を活用しながら、人口分布を主題にして、中国・四国地方の地域的特色や地域の課題を理解する。
- 中国・四国地方について、人口分布や都市・村落を中核とし、自然環境、産業、交通などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。
- 中国・四国地方に対する関心を高め、人口分布や都市・村落の立地と、自然環境や産業、交通などとの関連について意欲的に追究しようとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中国・四国地方に関する様々な資料を活用しながら、人口分布を主題にして、中国・四国地方の地域的特色や地域の課題を理解している。	中国・四国地方について人口分布や都市・村落を中核とし、自然環境、産業、交通などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。	中国・四国地方に対する関心を高め、人口分布や都市・村落の立地と、自然環境や産業、交通などとの関連について意欲的に追究しようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全6時間、本時6 / 6時間)

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	<p>【第1時】</p> <ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス課題 「東京から中国・四国地方に移住するKさんに、どこをおすすめするか。」を確認し、単元授業前の自分の考えをまとめる。 パフォーマンス課題を明らかにするために、どんな情報が必要になるか予想する。 	<p>◎パフォーマンス課題に対する自分の考えをまとめよう。</p> <p>◎パフォーマンス課題を明らかにするにはどのような情報が必要か。</p>	<p>態度</p> <p>パフォーマンス課題に対して、既習事項を確認し、自分なりの考えや予想を表現できている。【レポート】</p>
2 (4)	<p>【第2時】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方の人口分布や自然環境の特色を理解する。 パフォーマンス課題に関連しそうな社会的事象を選択する。 <p>【第3時】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方の都市である広島市の特色と課題を理解する。 <p>【第4時】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方の村落の特色と課題を理解する。 	<p>◎中国・四国地方の人口分布や自然環境の特色はどのようなものか。</p> <p>◎中国・四国地方の都市である広島市の特色と課題はどのようなものか。</p> <p>◎中国・四国地方の村落の特色と課題はどのようなものか。</p>	<p>知識・技能 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方の地形名や地方区分名、県名・県庁所在地名などを理解している。 中国・四国地方の人口分布や自然環境の特色について、根拠をもとに表現できている。【ノート・ワークシート】 <p>知識・技能 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 広島市の特色と課題を理解している。 広島市の特色と課題について、根拠をもとに表現できている。【ノート・ワークシート】 <p>知識・技能 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方の村落の特色と課題を理解している。 中国・四国地方の村落の特色と課題について、根

	<p>【第5時】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方の交通網の整備と、人口の変化の関係を理解する。 	<p>◎中国・四国地方の交通網の整備と、人口の変化の関係はどのようなものか。</p>	<p>拠をもとに表現できている。</p> <p>【ノート・ワークシート】</p> <p>知識・技能 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方の主な橋、高速道路の名称を理解している。 中国・四国地方の交通網の整備と、人口の変化の関係について、根拠をもとに表現できている。 <p>【ノート・ワークシート】</p>
<p>3 (1) 本時</p>	<p>【第6時】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者と協働して考える活動を通して、パフォーマンス課題に対する自分の考えを、既習事項を踏まえ、社会的事象を関連付けながら根拠をもって多面的に表現する。 単元を貫く課題「中国・四国地方の人口分布を決める要因は何か。」に対する自分の考えを、既習事項を有機的に結び付けたり、他者と対話したりしながら表現する。 	<p>◎これまでの学習をもとに、パフォーマンス課題に対する自分の考えをまとめよう。</p>	<p>思考・判断・表現 態度</p> <ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス課題に対する自分の考えを、既習事項を踏まえ、社会的事象を関連付けながら根拠をもとに多面的に表現している。 <p>【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス課題について、既習事項を有機的に結び付けたり、他者と対話をしたりしながら、意欲的に追究しようとしている。 <p>【観察】</p>

4 単元と生徒

(1) 単元について

本単元は、教科書の構成上「人口」に焦点を当てて社会的事象や人々の生活について理解を深めたり、思考・判断・表現したりすることが求められている。したがって、単元を貫く学習課題及びパフォーマンス課題については、生徒が「人口」に焦点をあてて考える必然性があるものを設定したいと考え、単元を貫く学習課題を「中国・四国地方の人口分布を決める要因は何か。」とし、パフォーマンス課題を「東京から中国・四国地方に移住するKさんに、どこをおすすめするか。」として設定した。こうすることで、2次の学習で「人口」に関連する社会的事象を、生徒が主体的に選択・判断しやすい環境を整備し、目的意識をもって学習できることを期待する。

(2) 生徒の実態

中国・四国地方に対する知識・理解の状況は、県名や県庁所在地名を知っている程度である。したがって、中国・四国地方における、自然環境、人口、産業、交通等に関して、基礎的な知識を培わせたい。その上で、中国・四国地方でみられる社会的事象を比較・関連づけながら、地理的な見方・考え方を働かせて、課題に対する自分の考えを表現できるようにしたい。

5 本時の展開（令和5年10月6日実施）

(1) ねらい

- パフォーマンス課題「東京から中国・四国地方に移住するKさんに、どこをおすすめするか。」について、既習事項を踏まえ、対話をしながら自己と他者の考えを比較・関連付け、自分なりの考えをまとめて発表する活動を通して、中国・四国地方における人口分布の要因が自然環境、産業、交通網などにあることに気づき、中国・四国地方の人口分布について多面的に理解し表現する。（思考力、判断力、表現力等）
- パフォーマンス課題について、既習事項を有機的に結びつけたり、他者と対話をしたりしながら、意欲的に追究しようとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

(2) 展開の構想

- ① パフォーマンス課題について、既習事項を踏まえ、対話をしながら自己と他者の考えを比較・関連付け、自分なりの考えをまとめる場を設定する。その際、自分の思考を可視化しながら整理し、発表しやすくするためのワークシートを活用する。
- ② 「自分で考える」「他者と相談する」「教科書や資料集で調べる」等、まとめ方や調べ方を、必要感や状況に応じて生徒が自分で選択できるようにする。

(3) 展開

時間	生徒の主な学習活動	教師の働きかけ（T）と 予想される生徒の反応（S）	評価・支援・留意点
導入 (5分)	○「単元を貫く課題」と「パフォーマンス課題」について確認する。	T：今日は中国・四国地方のまとめとして、これまで習ったことを生かし、Kさんに自分なりの考えをまとめ、伝える時間とします。課題は覚えていますか。 S：東京から中国・四国地方に移住するKさんにどこに住むのがおすすめか考える。 T：そうです。今日の授業は、 ①自分なりの考えをまとめる。 ②自分の考えを発表する。 ③「単元を貫く課題」である「中国・四国地方の人口分布を決める要因は何か。」について確認する。 という流れになります。質問はありますか？（なければ）それではタブレットを開き、①からはじめよう。	・生徒が本時の見通しをもてるよう、流れを説明する。

<p>展開① (20分)</p>	<p>○「パフォーマンス課題」に対して自分なりの考えをまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>◎東京から中国・四国地方に移住するKさんに、どこをおすすめするか。</p> </div> <p>S：気候の面から考えると～じゃないかな。 S：仕事のことを考えると～じゃないかな。 S：交通のことを考えると～じゃないかな。</p>	<p>・机間巡視をして、とまどっている生徒がいたら、他者と交流を促したり、考えるヒントを与えたりしながらフォローする。</p>
<p>展開② (20分)</p>	<p>○「パフォーマンス課題」に対する自分なりの考えを発表する。</p>	<p>T：それでは時間になったので、自分の考えを3分以内で発表してもらいます。名簿順に行いますので、□□さんからどうぞ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>思考・判断・表現</p> </div> <p>・パフォーマンス課題に対する自分の考えを、既習事項を踏まえ、社会的事象を関連付けながら根拠をもって多面的に表現している。</p> <p style="text-align: center;">【ワークシート】</p>	<p>・まとめが途中でもできたところまでで発表させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>態度</p> </div> <p>・パフォーマンス課題について、既習事項を有機的に結びつけたり、他者と対話をしたりしながら、意欲的に追究しようとしている。【観察】</p>
<p>まとめ・振り返り (10分)</p>	<p>○自分たちが考えた内容から「単元を貫く課題」に対するまとめをする。</p> <p>○授業の振り返りを書く。</p>	<p>T：Kさんの要望をふまえながら、全員が根拠をもって自分なりの考えを発表できていたと思います。</p> <p>T：ここでみなさんの考えてくれたことをみると、ある共通点があることに私は気付きますが、わかりますか？</p> <p>S：自然環境の内容が入っている。 S：仕事について内容がある。 S：交通についての内容が共通している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>まとめ 中国・四国地方の人口分布の要因は、自然環境、産業、交通者見方・考え方で考えられる。</p> </div> <p>T：まとめると、自然環境、産業、交通などの要因が関連し合って人口分布は成り立っていることがわかったと思います。</p> <p>T：以上で今日の授業は終了です。振り返りをエクセルに記入しましょう。</p>	<p>・共通点に生徒が気付きやすいよう、板書して分類する。</p>

(4) 評価

本時の評価基準	十分満足 (A)	おおむね満足 (B)	評価方法
パフォーマンス課題に対する自分の考えを、既習事項を踏まえ、社会的事象を関連付けながら根拠をもって多面的に表現している。 (思考・判断・表現)	パフォーマンス課題に対して、既習事項を生かし根拠をもって説明できる。また、中国・四国地方における人口分布の要因が自然環境、産業、交通網などにあることに気づき、中国・四国地方の人口分布について多面的に理解している。	パフォーマンス課題に対して、既習事項を生かし根拠をもって説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ、話し合いの様子 ・パフォーマンス課題の内容 ・振り返り

(5) 板書計画

<p>10/6</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎中国・四国地方に移住を考えているKさんに、どこをおすすめするか。</p> </div> <p>ながれ</p> <p>①自分なりの考えをまとめる。 →自分で、仲間と、教科書・資料集等</p> <p>②自分の考えを発表する。 →1人3分以内。</p> <p>③「単元を貫く課題」について確認する。</p>	<p><みんなが調べたことに共通すること></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;"> <p>【自然環境】 (生徒の考えを抜き出す)</p> </td> <td style="width: 33%;"> <p>【産業】 (生徒の考えを抜き出す)</p> </td> <td style="width: 33%;"> <p>【交通】 (生徒の考えを抜き出す)</p> </td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>まとめ 中国・四国地方の人口分布は、自然環境、産業、交通などの要因で成り立っている。</p> </div>	<p>【自然環境】 (生徒の考えを抜き出す)</p>	<p>【産業】 (生徒の考えを抜き出す)</p>	<p>【交通】 (生徒の考えを抜き出す)</p>
<p>【自然環境】 (生徒の考えを抜き出す)</p>	<p>【産業】 (生徒の考えを抜き出す)</p>	<p>【交通】 (生徒の考えを抜き出す)</p>		

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

- ① 1次（単元導入段階）で地理的な見方・考え方を働かせる生徒

1次でパフォーマンス課題を提示し、生徒に「何がわかればよりよい意思決定ができるのか」を問うたところ、中国・四国地方の「気候」「人口分布」「交通」「仕事」という答えが多かった。その上で、課題に対する現時点での自分の考えを書かせた。生徒A、生徒Bの記述した内容が以下の通りである。

【生徒A】

<選んだ市> 広島県広島市

<理由>

広島県は中国・四国地方の中でも一番都市化が進んでいるので仕事はあるし、休日は都市で買い物をしたいというKさんにおすすめの場所である。さらに、農村のような場所が存在するため、Kさんには広島県広島市がおすすめである。

【生徒B】

<選んだ市> 山口県山口市

<理由>

- ・山口市は日本海気候に属しているので、東京とは違った季節ごとの気温の変化や降水量が多いという特徴がある
- ・Kさんは今まで都市に住んでいたため、いきなり農村に行くよりは人口が多すぎない山口市がおすすめだと思った
- ・隣にはこの地域で一番都市化が進んでいる広島市があるので、休日はそこに遊びに行けると思う

自然環境や人口、交通などの地理的な見方・考え方をもとに考えようとする姿は確認できた。しかし、具体的な社会的事象同士を関連付けるまでには至っていなかった。

- ② 3次（意思決定段階）で地理的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を関連付けて意思決定する生徒

2次（知識獲得段階）までの既習事項をもとに、3次で自分の思考を可視化しながら整理し、発表しやすくするためのワークシートを活用し、パフォーマンス課題に対して意思決定させる場を設定した。生徒は自分が重要視する社会的事象を複数選択し、社会的事象同士を関連付け、因果関係を明らかにし、自分なりの意思決定ができた。

(2) 研究テーマに関わる評価

- ① 地理的な見方・考え方を働かせる条件と価値判断を行う条件を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を設定する。

①の手立てによって、4/4人が「自然環境」「人口」「交通」等の地理的な見方・考え方の必要性を感じることができた。これは、「パフォーマンス課題」の中の条件付けが、生徒の地理的な見方・考え方を引き出すのに有効であったと考える。

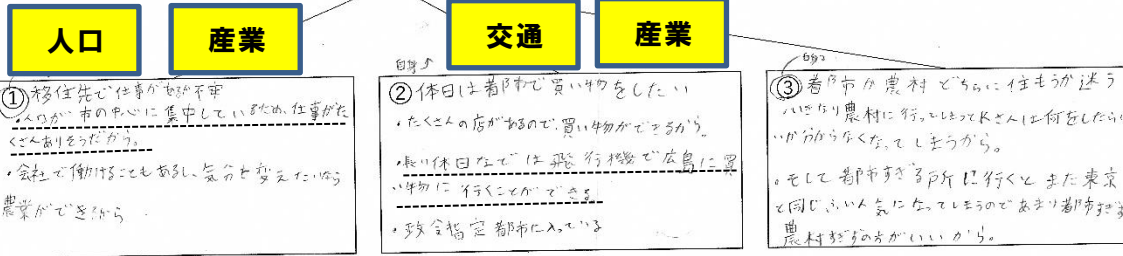
- ② 生徒が単元を通して関連付ける社会的事象を意識し続けられるように、単元構成を工夫する。

②の手立てによって、4/4人が、既習の社会的事象同士の因果関係を明らかにしながら関連付け、自分なりの意思決定をすることができた。これは、1次でパフォーマンス課題を提示したことにより、生徒が2次でパフォーマンス課題に関連しそうな社会的事象を意識し続けられたことの結果だと考えられる。

中国・四国地方に移住を考えているKさんに、どこをおすすめするか。【生徒A】

- ◆ 30歳 Kさん
- ◆ 元会社員（会社歴10年）
- ◆ 独身
- ◆ 東京とは違う気候の場所に住みたい
- ◆ 都市か農村どちらに住もうか迷う
- ◆ 移住先で仕事があるか不安
- ◆ 休日は都市で買い物をしたい

【結論】私はKさんに 岡山県 岡山市をおすすめします。



地方中核市 政令指定市 地域おこし協力隊 土産地消 第六次産業 瀬戸大橋

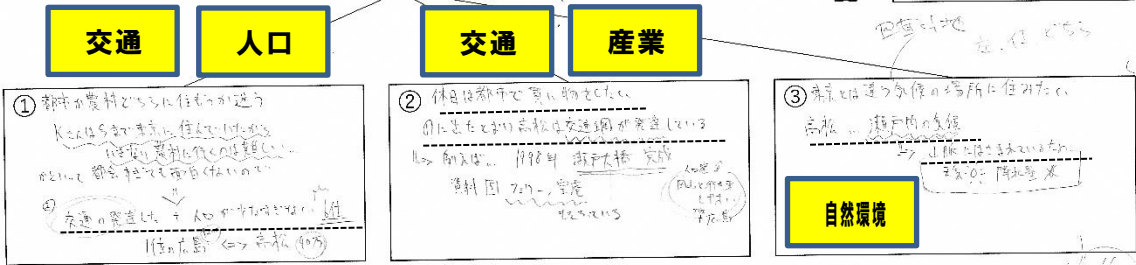
瀬戸内の気候 太平洋側の気候

※下線と見方・考え方は筆者

中国・四国地方に移住を考えているKさんに、どこをおすすめするか。【生徒B】

- ◆ 30歳 Kさん
- ◆ 元会社員（会社歴10年）
- ◆ 独身
- ◆ 東京とは違う気候の場所に住みたい
- ◆ 都市か農村どちらに住もうか迷う
- ◆ 移住先で仕事があるか不安
- ◆ 休日は都市で買い物をしたい

【結論】私はKさんに 香川県 高松市をおすすめします。



瀬戸内の気候 (高松) 政令指定市 (地方中核市) 第六次産業 (自給) 瀬戸内 高松 (高松)

※下線と見方・考え方は筆者

(3) 成果と課題

① 成果

自然環境や人口、産業、交通などの地理的な見方・考え方を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を提示することで、単元導入段階でも地理的な見方・考え方をもとに意思決定しようとする姿がみられることがわかった。また、単元導入段階でパフォーマンス課題を提示し、単元を通して関連付ける社会的事象を生徒に意識させることで、より多くの社会的事象を関連付けられることが明らかになった。

② 課題

どのような記述や発言がみられれば、生徒が社会的事象を関連付けていると判断できるのかについて、より精査し、評価につなげていくことが必要である。加えて、「パフォーマンス課題」の条件付けや、本実践の単元構成の工夫が、歴史的分野や公民的分野でも活用できるのかについて、検討することが必要である。

生徒がより多くの社会的事象を関連付け、より妥当性の高い意思決定を行うことができるよう、実践研究を今後も継続していきたい。

7 引用・参考文献

- (1) 小原友行「社会科における意思決定」. 社会認識教育学会. 『社会科教育学ハンドブック』. 明治図書. 1994年.
- (2) 唐木清志「子どもの「問い」を継続させるための工夫」. 『社会科教育 10月号・750号』. 明治図書. 2021年.
- (3) 川端裕介『単元を貫く学習課題でつくる！中学校地理の授業展開&ワークシート』. 明治図書. 2019年.
- (4) 川端裕介『川端裕介の中学校社会科授業 見方・考え方を働かせる課題設定&評価スキル60』. 明治図書. 2022年.
- (5) 七里広志『思考ツール×パフォーマンス課題でつくる中学校社会科授業』. 明治図書. 2022年.
- (6) 中野英水『パフォーマンス課題を位置づけた中学校地理の授業プラン&ワークシート』. 明治図書. 2021年.
- (7) 西岡加奈恵・石井英真編『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価 「見方・考え方」をどう育てるか』. 日本標準. 2019年.
- (8) 峯明秀「社会科における意思決定」. 社会認識教育学会. 『新 社会科教育学ハンドブック』. 明治図書. 2012年.
- (9) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』. 2017年.